

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472301074	事業の開始年月日	平成17年10月1日
		指定年月日	平成17年10月1日
法人名	有限会社 フェエルシ		
事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋		
所在地	(〒250-0034)		
	小田原市板橋9 3 3 - 3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		エント数	2 エント
自己評価作成日	平成27年12月16日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で、心身を活性化し、認知症の進行の緩和を図る。
----------------------------------

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年1月13日	評価機関 評価決定日	平成28年4月13日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は箱根登山鉄道の箱根板橋から徒歩約10分程の閑静な住宅地に立地している。近くには松永記念館や香林寺があり、毎日の散歩コースとなっている。建物は無垢材や漆喰などの自然素材を使用し、環境にやさしい作りになっている。建物の中はエレベーターが設置されている。「特定非営利活動法人 歩歩」グループに所属する、有限会社フェエルシが運営するグループホームで、認知症対応型通所介護を併設している。</p> <p><b>【理念に基づく支援の実践】</b> 「家庭的な雰囲気を大切にする」という理念の実現には、職員配置を多くして、美味しい手づくりの食事を提供したり、研修を充実させてきめ細かな支援をしている。「心身の活性化を目指した環境を作ります」については、起床時間、朝食、午前中の作業、散歩、昼食、午睡、おやつ、レクリエーション、夕食など、時間割を決めて規則正しい生活を送ることで、心身の活性化につなげている。毎日散歩を日課とし、車いすの方もソファや椅子に移動して身体機能の維持に努めている。介護計画書に基づく「サービスチェック表」を作り、毎日の実施状況を記録している。</p> <p><b>【医療連携の強化による看取りの実施】</b> 訪問診療医の来訪が月2回あり、24時間の連絡の取れる体制を確保している。毎週看護師の訪問があり、緊急時にはオンコール体制となっている。歯科衛生士が週1回来訪して口腔ケアをしている。「看取りに関する指針」を作成して、契約時に利用者や家族に説明し、看取りが必要になった場合は指針を基に利用者や家族の意思を尊重し、医師と相談して「看取り計画書」を作成し、家族と医師、看護師、職員が協力して対応している。</p> <p><b>【地域との連携を強化】</b> 自治会に加入して、どんど焼きなどの行事に参加している。神社のお祭りに神輿や山車が事業所に立ち寄り、地域の方が木遣りを歌ってくれる。三味線、フルート、ウクレレやレクリエーションなどのボランティアの来訪が多くあり、利用者は楽しく過ごしている。高校生の職場体験や中学生の社会科見学なども受け入れ、事業所のお祭りには地域の方が参加している。地域の独居高齢者を災害時に受け入れる体制が出来ている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ぽぽ箱根板橋
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、3つの運営理念を休憩室の掲示板や事務所に掲示し、理解に向けた働きかけを行っている	開設時に当時の管理者と職員が「家庭的な雰囲気大切にします」「心身の活性化を目指した環境を作ります」「安心した生活が送れるようお手伝いします」の3つの理念を作成している。事務所や休憩室などに掲示し、会議や朝夕の引き継ぎ時に確認している。職員は理念を共有し、使命感を持って支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し、交流している。	小田原61自治会に加入し、自治会の会報から情報を収集している。近くの神社のお祭りでは神輿や山車が事業所の前に来て、地域の方が木遣りを歌ってくれる。三味線、フルート、ウクレレ、れくれーしょんレクリエーションなどのボランティアが来訪している。中学生の社会科見学や高校生の職場体験を受け入れている。事業所のお祭りには地域の方が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小田原市が行っている「認知症サポーター研修」に協力し、市内の会場へ講師を派遣している。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>懸案になっている防災訓練について、町内会長・民生委員を交えて検討し、参加した。また、施設行事へ招待し、ご家族・ご利用者との交流を促した。</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回を基本としている。メンバーは利用者、利用者家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人代表、管理者、居宅ケアマネジャーなどである。事業所の活動報告と災害時の地域との連携などについて確認している。外部評価の報告もしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>申請代行や、生活保護受給者の手続き等の際、困ったこと等相談する機会を設けている。また、行政主催の会議や研修等に出席し、連携を深めている。</p>	<p>小田原市介護保険課へは、要介護認定更新代行などの手続きや相談に行っている。小田原市グループホーム連絡会に参加して他の事業所の方や行政との情報交換をしている。市や県が主催する研修にも参加している。生活保護ワーカーとは毎月連携している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、施設内研修を行い、理解を深めている。	運営規程に身体拘束をしないことを明記している。県の「高齢者、家族の心に耳を傾けるケアを目指して」を基にして研修を実施している。自己点検シートも活用している。玄関は夜間のみ施錠し、フロアのドアは開放して、職員が見守を重視している。介護用のベッドでの事故防止のためにセンサーや鈴をつけて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し、人権を大切にしている。身体拘束の研修の際、確認しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をご利用されているご入居者が複数おり、職員は制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明している。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会が多く、その都度ご意見を伺うようにしている。運営会議に出席されていたご家族は、ご本人の退居と同時に退会され、現在新規出席者を調整中。</p>	<p>訪問時や運営推進会議の時に、意見や要望を聞いている。請求書の内容が分かりづらいたの指摘があり、現金出納書を作成して改善した例がある。利用者の要望は日常の支援の中で確認し、食事のメニューに対する要望にも対応している。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。	毎月のカンファレンスや朝夕の引き継ぎ時に意見や要望を聞いている。職員から服薬管理に対する意見があり、管理者は2人体制で行う事を指示した。方法については職員自らが考え改善につながったという事例がある。人事考課の面接が年1回あり、管理者が職員の意見や要望を聞く良い機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加させる機会を、多く作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。管理者は役員をしており、会員施設のケアスタッフが研修等に参加しやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込み時に施設を見学、あるいは体験入居をしていただき、不安感や困り事を傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在のご本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困り事・要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーへ連絡をし、状況を確認すると共に、自宅等へ訪問して、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、ご利用者から昔の風習などを教わりながら、一緒に暮らす者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に、ご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるか、ご家族に出来ること、施設で出来ることを、一緒に話し合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしている。	知人や友人が年に1～2回訪ねて来る。来訪時には居室で対応し、湯茶の接待をしている。手紙の代読をしたり、電話の取り次ぎもしている。携帯電話を持参している方もいる。家族対応でお墓参りや行きつけの美容室に行っている。パワーリハビリを入居前から続けている方の送迎支援をしている。家庭での仕事の延長として、洗濯物を職員と一緒にたたんでいる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで行うレクや作業を中心に、日中、出来るだけリビングで過ごすことにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族等から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等に、ご家族やご本人から意見を聞いている。また、日常のかかわりの中でも、ご本人の思いを把握するよう努めている。	入所時のアセスメントや日常の支援の中で思いや意向を把握している。入所前のケアマネジャーや家族から聞くこともある。把握の困難な方は表情や態度から把握している。職員は常勤が12名で、非常勤が4名で、きめ細かな支援を実施している。介護福祉士の資格を持っている職員は7名いる。法人が資格取得の支援をして、研修も充実しており、安心できる体制になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操・散歩等を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいた事を話し合い、時にはご家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントを実施し、暫定の介護計画書を作成し、1～3カ月後にカンファレンスで正式な介護計画書を作成している。介護計画書の見直しは3～6ヶ月で、状況に応じてその都度見直している。利用者、家族、医師、看護師の意見も反映させている。サービスチェック表を活用し、日々確認して介護計画書との連動を図っている。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活記録簿にケアに実施・工夫などを記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに生かしている。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの主治医に診ていただいている方は、ご本人の希望を尊重し、通院介助を行っている。	以前からのかかりつけ医に5名が受診している。基本的には家族が対応しているが、職員が付き添うこともある。受診情報提供書に記録している。訪問診療医（心療内科）は毎月2回来訪して、緊急時には24時間対応可能である。訪問診療記録に記入して、情報を共有している。協力医療機関もあり、整形外科や泌尿器科の通院には職員が対応している。歯科衛生士が毎週来訪して口腔ケアを実施し、治療が必要な場合は歯科医の往診がある。事業所の看護師が2名で週3回、準看護師が1名で毎週4回来訪して健康管理に努めている。看護師とはオンコール体制になっており、安心できる体制になっている。	

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は日常で気付いた情報を看護職員に伝え、相談している。</p> <p>看護職員は、ご入居者に対し、状況に応じて診察を受けられるよう、支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は介護サマリを作成し、ご本人の状況について、情報提供をしている。急性期が過ぎた段階で速やかに退院出来るよう、医療機関との連携を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にお看取りのことも含めて、ご家族の意向を確認し、施設の方針の説明を行っている。	「看取りに関する指針」を作成し、契約時に利用者、家族に説明している。重度化した場合には「看取り介護についての同意書」を得て「看取り計画書」を作成し、家族、医師、看護師、職員が協力して看取りを実施している。本年度の看取りの実績はないが、今まで8名の看取りを実施した。研修は基本的な認知症の理解について行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や自己発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。応急時の対応についても、行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。1回は消防署に通報する訓練を交えた火災避難訓練。1回は、地域の防災訓練に参加。	年2回、避難訓練を実施している。1回は消防署の立ち合いで、夜間を想定した訓練も実施している。今までは地域の方の参加がなかったので、運営推進会議で自治会長等と話し合い、今後の連携に向けた体制作りを検討している。備蓄は水、食料、懐中電灯、簡易トイレ、オムツなどで1週間分確保している。地域の独居高齢者の受け入れも可能である。	運営推進会議等で地域との連携体制が検討されていますが、実際に地域の方が事業所の避難訓練に参加されるなど、より一層の協力体制ができる事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや態度に気をつけるよう対応している。	言葉遣いには十分に注意し、馴れ合いにならないようにしている。基本的には利用者は苗字を「さん」づけで呼び、トイレ誘導などはさりげなく声かけ、誘導するようにしている。職員は「個人情報守秘義務」の誓約書を事業所へ提出し、個人情報などの書類は事務所の鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの時間やティータイムを利用して、ご本人達が何をされたいか希望を聞いている。その中で、出来る事を提案しながら、ご本人が決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ルーティーンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣類を一緒に買いに行ったり、ご利用者の希望に併せて、訪問理美容を提供している。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援          食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご本人の好みに合わせて、献立以外の物も提供している。職員と外食したり、季節のお弁当を購入して、お花見を楽しんでいる。</p>	<p>食事は3食、専任の調理担当者が作っている。1階で調理し、2階に運んでいる。食材の調達には調理担当者が近くのスーパーで行い、魚は特に味と鮮度にこだわっており、早川漁港の個人商店から仕入れている。献立は利用者の希望を取り入れて作成している。できる利用者は後片付けや食器ふきを職員と一緒にしている。ファミリーレストランなどで外食することもあり、行事の時は寿司や弁当などの出前を頼むこともある。クリスマスにはケーキを作り、正月にはおせち料理を楽しんでいる。職員も同じものを食べて介助している。体調に応じてきざみやとろみ食にも対応している。</p>	
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に、ティータイムのお茶やおやつ等で栄養や水分の確保をしている。また、ご本人の状態に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で行われる人も、必要に応じて職員が口腔内をチェックしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、一人ひとりに声をかけ、自立に向けた支援を行っている。	完全自立の方が2名で、一部介助者が2名である。他の方はオムツやパットを使用している。排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、声をかけてトイレ誘導し、自立を促している。夜間はパットの種類を変えて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前午後に体操を行い、散歩を日課としている。食物繊維の摂取にも心がけている。排泄状態の把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調やご希望に合わせて、個別対応を心がけている。	入浴は原則週2回としている。希望があればできる限り対応している。同性介助にも対応しており、一人で入る方もいる。入浴を好まない方には声かけを工夫したり、時間をずらしたり、人を変えたりして対応している。お湯は1回ごとに取り換えて、ゆず湯や菖蒲湯にすることもある。入浴時間はコミュニケーションの大切な場となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度の運動により安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し、理解している。管理は施設で行い、個々の体重の変化や異変について、確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて、みんなで行っている。 一人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活出来るような援助を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけている。また、市内の施設（フラワーガーデンや小田原城等）に少人数のグループで外出することもある。	天気の良い日には毎日近くの松永記念館や香林寺を散歩している。車いすの方も対応している。日光浴や事業所の周りを回る方もいる。小田原城やフラワーセンターに法人の車で行くこともある。個別の対応で買い物や外食に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度自己管理が可能な時は、小額の管理はしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、ご本人が書かれたお手紙を投函している。また、電話の取次ぎ等の援助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう、心がけている。	リビングはオープンキッチンで職員は利用者を見守ることができ、食事の香りが漂い、家族的な雰囲気を醸し出している。利用者と職員と一緒に干支の貼り絵を作成して、行事の写真などと一緒に展示している。清掃は職員が実施しており、リビングは床暖房になっている。換気やうがい、手洗いには十分注意している。トイレは2箇所1箇所は車いす対応である。廊下は広く車椅子が交差でき、エレベーターも設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも自由に交流出来る様になっている。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物を入居時にお持ちいただける様、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。</p>	<p>居室には照明、エアコン、防炎カーテンが備え付けられており、ベッドや車いすは必要に応じて事業所が提供している。仏壇、三面鏡、テレビ、時計、写真などを持ち込んでいる。火気厳禁で、家電製品はアンペアーの問題で制限することもある。居室担当者が居室の清掃や備品、衣類、洗濯物などの整理整頓をしており、できる利用者は一緒に清掃をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、廊下、風呂場等に手すりを設置し、自立を促すよう、配慮している。</p>		

事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋
ユニット名	かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、3つの運営理念を休憩室の掲示板や事務所に掲示し、理解に向けた働きかけを行っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小田原市が行っている「認知症サポーター研修」に協力し、市内の会場へ講師を派遣している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	懸案になっている防災訓練について、町内会長・民生委員を交えて検討し、参加した。また、施設行事へ招待し、ご家族・ご利用者との交流を促した。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請代行や、生活保護受給者の手続き等の際、困ったこと等相談する機会を設けている。また、行政主催の会議や研修等に出席し、連携を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、施設内研修を行い、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し、人権を大切にしている。身体拘束の研修の際、確認しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をご利用されているご入居者が複数おり、職員は制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会が多く、その都度ご意見を伺うようにしている。運営会議に出席されていたご家族は、ご本人の退居と同時に退会され、現在新規出席者を調整中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加させる機会を、多く作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。管理者は役員をしており、会員施設のケアスタッフが研修等に参加しやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込み時に施設を見学、あるいは体験入居をしていただき、不安感や困り事を傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在のご本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困り事・要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーへ連絡をし、状況を確認すると共に、自宅等へ訪問して、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、ご利用者から昔の風習などを教わりながら、一緒に暮らす者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に、ご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるか、ご家族に出来ること、施設で出来ることを、一緒に話し合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで行うレクや作業を中心に、日中、出来るだけリビングで過ごすことにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もお家族等から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等に、ご家族やご本人から意見を聞いている。また、日常のかかわりの中でも、ご本人の思いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操・散歩等を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいた事を話し合い、時にはご家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアに実施・工夫などを記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの主治医に診ていただいている方は、ご本人の希望を尊重し、通院介助を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常で気付いた情報を看護職員に伝え、相談している。 看護職員は、ご入居者に対し、状況に応じて診察を受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリを作成し、ご本人の状況について、情報提供をしている。急性期が過ぎた段階で速やかに退院出来るよう、医療機関との連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にお看取りのことも含めて、ご家族の意向を確認し、施設の方針の説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や自己発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。応急時の対応についても、行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。1回は消防署に通報する訓練を交えた火災避難訓練。1回は、地域の防災訓練に参加。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや態度に気をつけるよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの時間やティータイムを利用して、ご本人達が何をされたいか希望を聞いている。その中で、出来る事を提案しながら、ご本人が決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ルーティーンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣類を一緒に買いに行ったり、ご利用者の希望に併せて、訪問理美容を提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みに合わせて、献立以外の物も提供している。職員と外食したり、季節のお弁当を購入して、お花見を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に、ティータイムのお茶やおやつ等で栄養や水分の確保をしている。また、ご本人の状態に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で行われる人も、必要に応じて職員が口腔内をチェックしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、一人ひとりに声をかけ、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前午後に体操を行い、散歩を日課としている。食物繊維の摂取にも心がけている。排泄状態の把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調やご希望に合わせて、個別対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度の運動により安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し、理解している。管理は施設で行い、個々の体重の変化や異変について、確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて、みんなで行っている。 一人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活出来るような援助を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけている。 また、市内の施設（フラワーガーデンや小田原城等）に少人数のグループで外出することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度自己管理が可能な時は、小額の管理はしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、ご本人が書かれたお手紙を投函している。また、電話の取次ぎ等の援助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう、心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやていぶるが置いてあり、いつでも自由に交流出来る様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を入居時にお持ちいただける様、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを設置し、自立を促すよう、配慮している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームぼぼ箱根板橋

作成日 平成28年3月29日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策について、避難時等に近隣住民の協力が得られるよな、具体的な協力体制がとられていない。	施設の状況を理解していただき、地域住民に避難訓練等に参加してもらい、災害発生時に協力いただけるようにする。	今年度、初めて地域防災訓練に参加したが、施設内での点呼に留まり、実際に避難場所へは行けなかった。次年度は、自治会長や民生員と再度検討会をし、具体的な避難活動を行う。	2016. 4. 1 ～ 2017. 3. 31
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。